[別紙２]

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 石川 陽子

本研究は、日本における男女のリプロダクティブヘルス意識と女性のリプロダクティブヘルスとの関係を夫婦単位で調査・研究したものである。具体的には、1）リプロダクティブヘルス意識スケールを作成し、2）妊産婦とその配偶者に対し、調査票を用いた量的研究を行い、リプロダクティブヘルス意識と女性の望まない性行為、望まない妊娠、人工妊娠中絶、性感染症、言葉による暴力、身体的暴力の経験との関係を解析したものであり、下記の結果を得ている。

1. 開発されたリプロダクティブヘルス意識スケールは20項目4因子から成り、第1因子：生殖における女性の自己決定、第2因子：性に関する反ジェンダーステレオタイプ、第3因子：性に関するコミュニケーション、第4因子：リプロダクティブライツである。
2. リプロダクティブヘルスに関する意識における男女の得点差は、第1因子：生殖における自己決定、第2因子：性に関する反ジェンダーステレオタイプ、第4因子：リプロダクティブライツと総スケールでみられ、女性の方が有意にリプロダクティブヘルス・ライツの概念を受容する態度を示していた。
3. リプロダクティブヘルスに関する情報源では、避妊については女性が専門書から情報を得ることが多いのに比して、男性はマスメディアを主な情報源としていた。性感染症に関する情報源では、男女ともマスメディアが第一であった。知識に関しては妊娠、出産に関する項目では女性の正解率が高い反面、性感染症に関する項目では男性の知識が高かった。希望する子供の数について性差はみられなかったものの、配偶者の希望する子供の数

を正しく認識していたのは約半数であった。

4. 望まない性行為を経験している女性と夫から身体的暴力を受けた経験を持つ女性は望まない妊娠と人工妊娠中絶をより多く経験していた。

5. 望まない妊娠と人工妊娠中絶を経験している女性では、未経験群に比べ、配偶者の第2因子：性に関する反ジェンダーステレオタイプの平均得点が有意に低かった。

6. 男性のリプロダクティブヘルス意識得点の低さは、配偶者の望まない性行為、望まない妊娠、人工妊娠中絶、身体的暴力の経験と有意に関連していることが明らかになった。反面、身体的暴力の経験は女性のリプロダクティブヘルス意識の上昇と関連していた。多変量解析により、男性のリプロダクティブヘルス意識が、女性の意識よりも有意に女性のリプロダクティブヘルスに影響を与えていることが明らかになった。

7. 社会経済的属性との関係については、女性の就労は望まない妊娠と人工妊娠中絶の増加と、2 人以上の子供を有することは人工妊娠中絶の増加と、男性の高卒以下の学歴は配偶者の身体的暴力の経験の増加とそれぞれ関連していた。

以上、本論文は男女、とりわけ男性の意識が女性のリプロダクティブヘルスに大きな影響を与えることを証明したものである。夫婦単位の研究により男女の意識と女性のリプロダクティブヘルスとの関係が検証されたのは避妊行動を除いては本研究が初めてであるという点で独創性があり、また男性への介入の必要性を示唆したことは、今後のリプロダクティブヘルスプロモーションに重要な貢献をなすものであり、学位の授与に値するものと考えられる。